



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

2018年9月20日

2020東京オリンピック・パラリンピック競技 大会開催に伴う新卒採用試験等に関する 企業等の意識調査(速報)

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

実施責任者 五十嵐 浩也 大学執行役員／センター長

実施担当者 末富 真弓 准教授



調査目的

2年後の2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。世界的な大規模イベントであるため、多方面に影響が出ることも予想される。

大学生(大学院生含む)らにとって、大会が開かれる夏の時期は企業や公務員等のインターンシップや採用試験の選考が多く行われることから、将来を決める就職活動に影響が出る可能性が考えられる。

そこで、企業等における2020年度の大学生らの就職活動等に関する意識調査を実施し、課題等を明らかにすることを目的とする。



調査方法

- 調査対象：企業を中心とした700社の人事担当者等
- アンケート方法：webアンケート回答フォーム
- 質問項目：13項目（次ページ参照）
- 実施期間：2018年8月1日(水)～2018年9月15日(土)
- 有効回答：137社（回収率19.5%）

※「アンケート方法」に関しては、セキュリティ上の問題でweb回答が難しい場合は、メールでの回答も認めた。



質問項目

I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

- 質問1 貴社における大学生・大学院生のインターンシップ受け入れ時期と、オリンピック・パラリンピックのボランティア参加の時期が重なる可能性はありますか？(必須)
- 質問2 質問1が「はい」の場合、それに対して何等かの対策を講じる予定はありますか？
- 質問3 質問2が「はい」の場合、その対策は、貴社のインターンシップ受け入れを優先するものですか？もしくは学生のオリンピック・パラリンピックへのボランティア参加を優先するものですか？
- 質問4 質問3についてその理由をお答えください。(自由記述)
- 質問5 質問2が「いいえ」「未定」の場合、その理由をお答えください。(自由記述)

II 貴社における2020年度の大学生・大学院生の新卒採用試験についてお聞きします。

- 質問6 貴社における大学生・大学院生の新卒採用試験の時期と、オリンピック・パラリンピックのボランティア参加の時期が重なる可能性はありますか？(必須)
- 質問7 質問6が「はい」の場合、それに対して何等かの対策を講じる予定はありますか？
- 質問8 質問7が「はい」の場合、その対策は貴社の新卒採用試験を優先するものですか？もしくは学生のオリンピック・パラリンピックへのボランティア参加を優先するものですか？
- 質問9 質問8についてその理由をお答えください。(自由記述)
- 質問10 質問7が「いいえ」「未定」の場合、その理由をお答えください。(自由記述)

III

- 質問11 貴社としては、オリンピック・パラリンピックのボランティアとして積極的に参加した大学生・大学院生をどのように評価しますか？(必須)
- 質問12 現時点で大学生・大学院生のインターンシップ受け入れや新卒採用試験と、オリンピック・パラリンピックの学生のボランティア参加の関係について課題だと感じていることがあればご記入ください。(自由記述)
- 質問13 オリンピック・パラリンピックに大学生・大学院生がボランティアとして参加することに対して、貴社として大学側に期待すること、求めることがあればご記入ください。(自由記述)

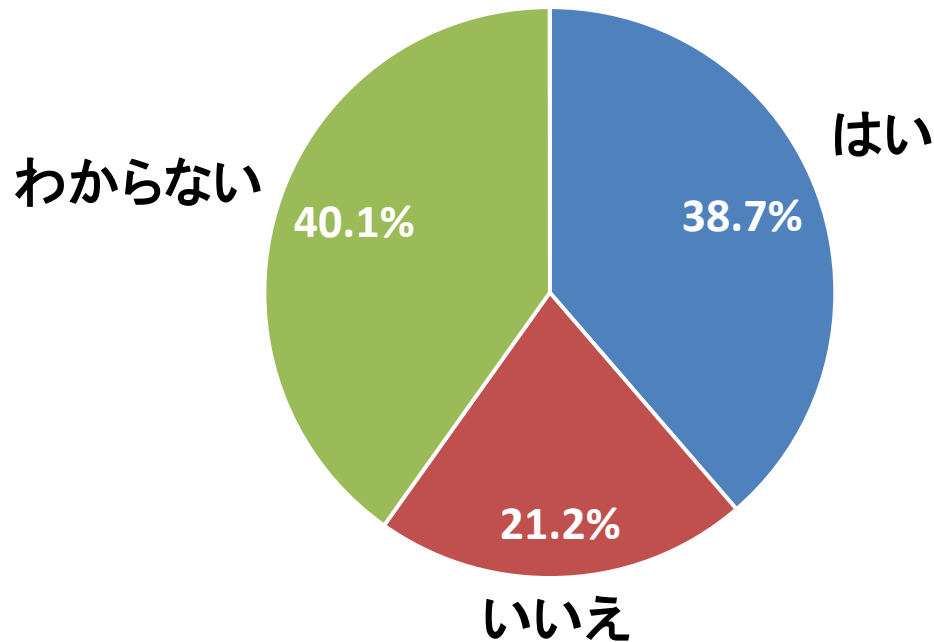


調查結果



I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

質問1 貴社における大学生・大学院生のインターンシップ受け入れ時期と、オリンピック・パラリンピックのボランティア参加の時期が重なる可能性はありますか？



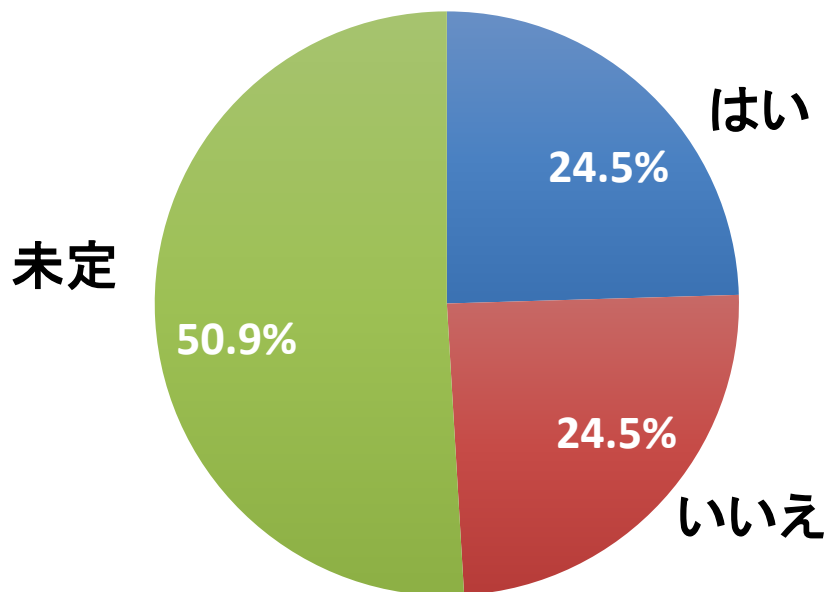
(n=137)

「インターンシップ受け入れの時期」と「ボランティア参加の時期」が重なるは「わからない」がもっとも多く40.1%であった。「はい」(38.7%)を足すと**78.8%**となり、**重なる可能は高い**と考えられた。



I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

質問2 質問1が「はい」の場合、それに対して何等かの対策を講じる予定はありますか？



(n=53)

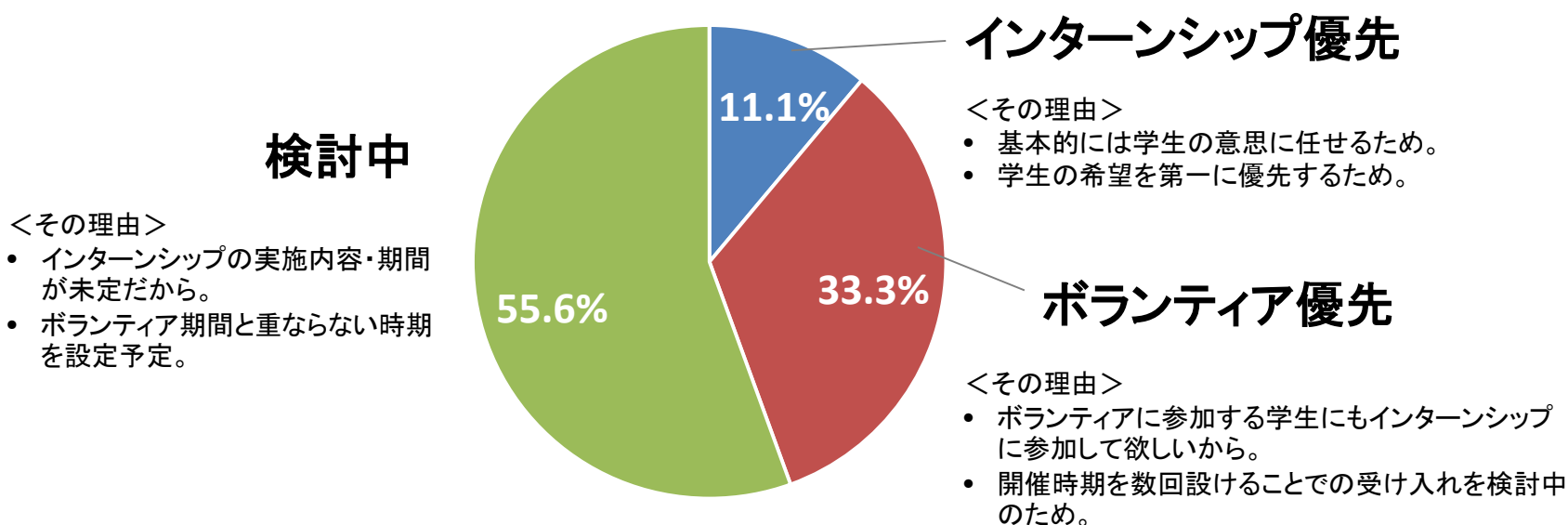
インターンシップとボランティア活動の時期が重なることに対する対策を講じるかどうかでは「未定」が50.9%と約半数を占めた。



I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

質問3 質問2が「はい」の場合、その対策は、貴社のインターンシップ受け入れを優先するものですか？もしくは学生のオリンピック・パラリンピックへのボランティア参加を優先するものですか？

質問4 質問3についてその理由をお答えください。(自由記述)



(n=36)

「検討中」(55.6%)と回答した企業が半数以上を占めるが、その中でも選考日は複数設定などの検討がされていることが一部自由記述より伺えた。



I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

質問5 質問2が「いいえ」「未定」の場合、その理由をお答えください。(自由記述)

学生の意思を尊重

<その理由>

- 夏の長期インターンシップは大学夏季休暇に合わせ3週間実施。この期間以外では学生の自由になる期間がないものと考えられるため。
- 勉学・インターンシップ・ボランティア・アルバイト・旅行など自分にとって必要と思う経験を積んで、成長してほしい

現行通りの日程で問題ない

<その理由>

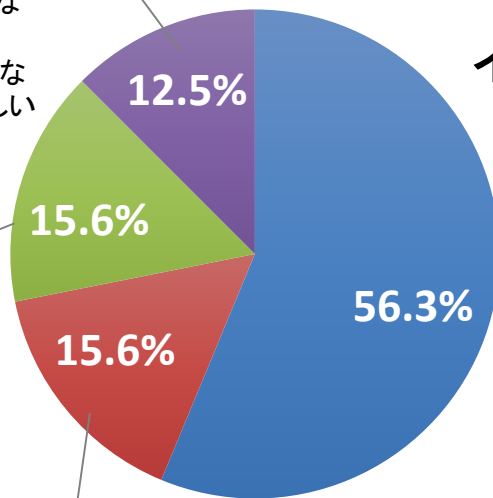
- 従来複数日程を設定しているため、ボランティアに被る日程がある。
- 例年通りの開催日程が8月中旬～9月上旬となるため、重なる可能性はないと考えている

インターンシップを柔軟に対応

<その理由>

- 時期が重なった場合は複数日程を用意し対応。
- なるべく学生が参加しやすい日程で検討したい。

(n=32)



インターンシップの方針が未定

<その理由>

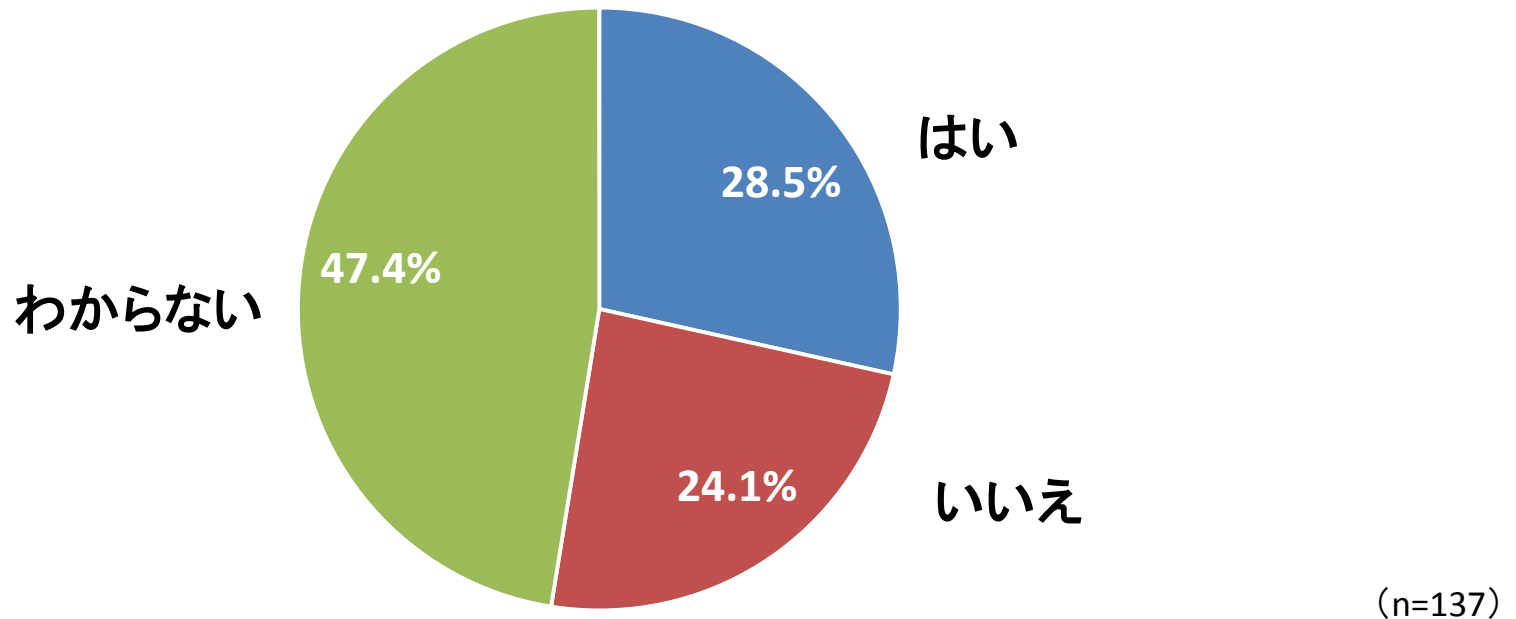
- 経団連スケジュールが確定次第、検討する。
- 21年卒以降の新卒採用活動スケジュールが分からないため。
- オリンピック・パラリンピック開催時、当社東京地区オフィスでのインターン受入自体が困難となる事が想定されるため。

理由としては、「**インターンシップの方針が未定**」(56.3%)が半数以上であった。また、一部回答では、**パラリンピック開催の時期が本検討の対象時期に入っていない**ことが伺えた。



Ⅱ 貴社における2020年度の大学生・大学院生の新卒採用試験についてお聞きします。

質問6 貴社における大学生・大学院生の新卒採用試験の時期と、オリンピック・パラリンピックのボランティア参加の時期が重なる可能性はありますか？

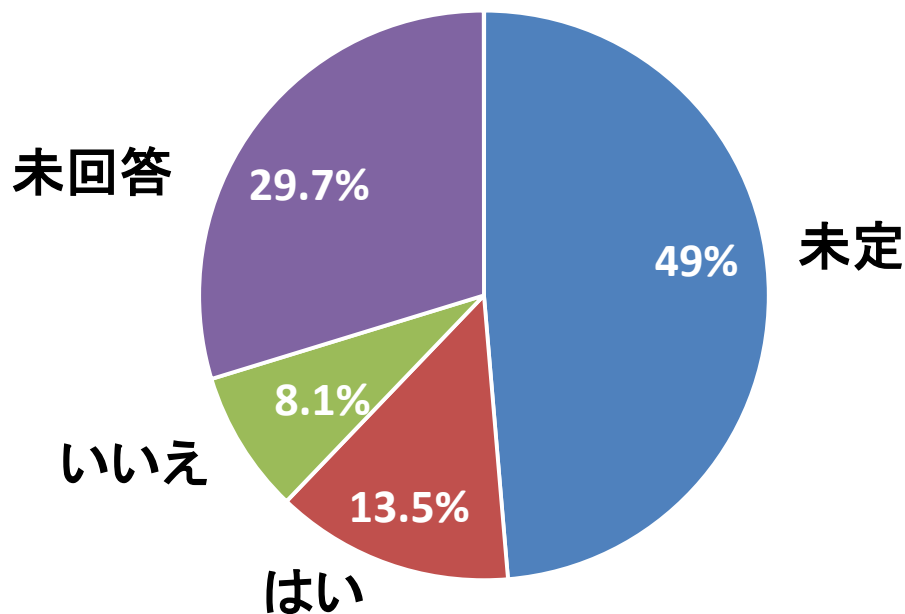


「新卒採用試験の時期」と「ボランティア参加の時期」が重なるは「わからない」がもっとも多く47.4%であった。「はい」(28.5%)を足すと**75.9%となり、重なる可能性は高い**と考えられた。



Ⅱ 貴社における2020年度の大学生・大学院生の新卒採用試験についてお聞きます。

質問7 質問6が「はい」の場合、それに対して何等かの対策を講じる予定はありますか？



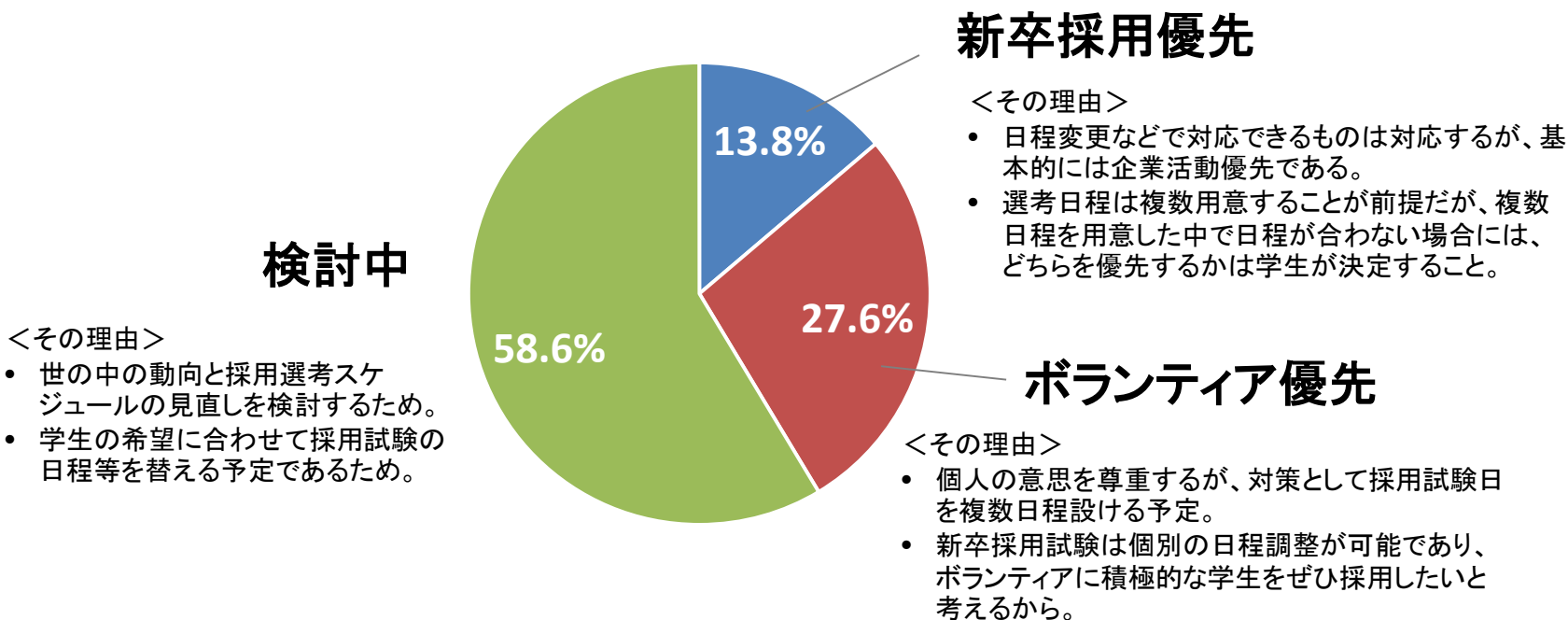
(n=39)

重なった場合の対策を講じるかどうかについては**約半数が「未定」(49%)**である。時期が重複する可能性は高いが、その多くは現段階で検討するかどうかも含め未定の状態であることが伺えた。



Ⅱ 貴社における2020年度の大学生・大学院生の新卒採用試験についてお聞きます。

- 質問8 質問7が「はい」の場合、その対策は貴社の新卒採用試験を優先するものですか？
もしくは学生のオリンピック・パラリンピックへのボランティア参加を優先するものですか？
- 質問9 質問8についてその理由をお答えください。(自由記述)



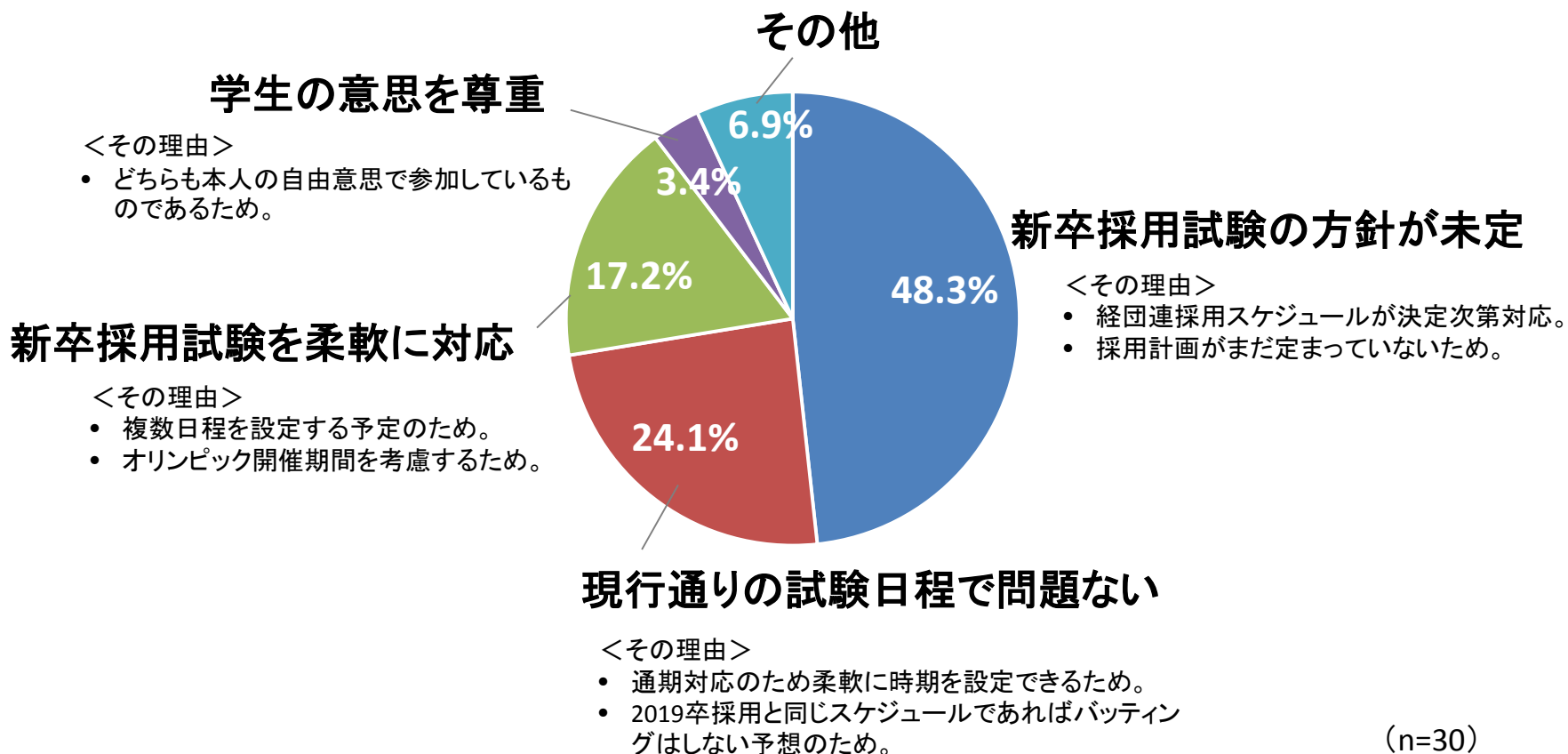
(n=29)

「検討中」(58.6%)と回答した企業が半数以上を占めるが、選考日は柔軟に対応が検討されていることが一部自由記述より伺えた。



I 貴社における2020年度の大学生・大学院生のインターンシップ受け入れについてお聞きします。

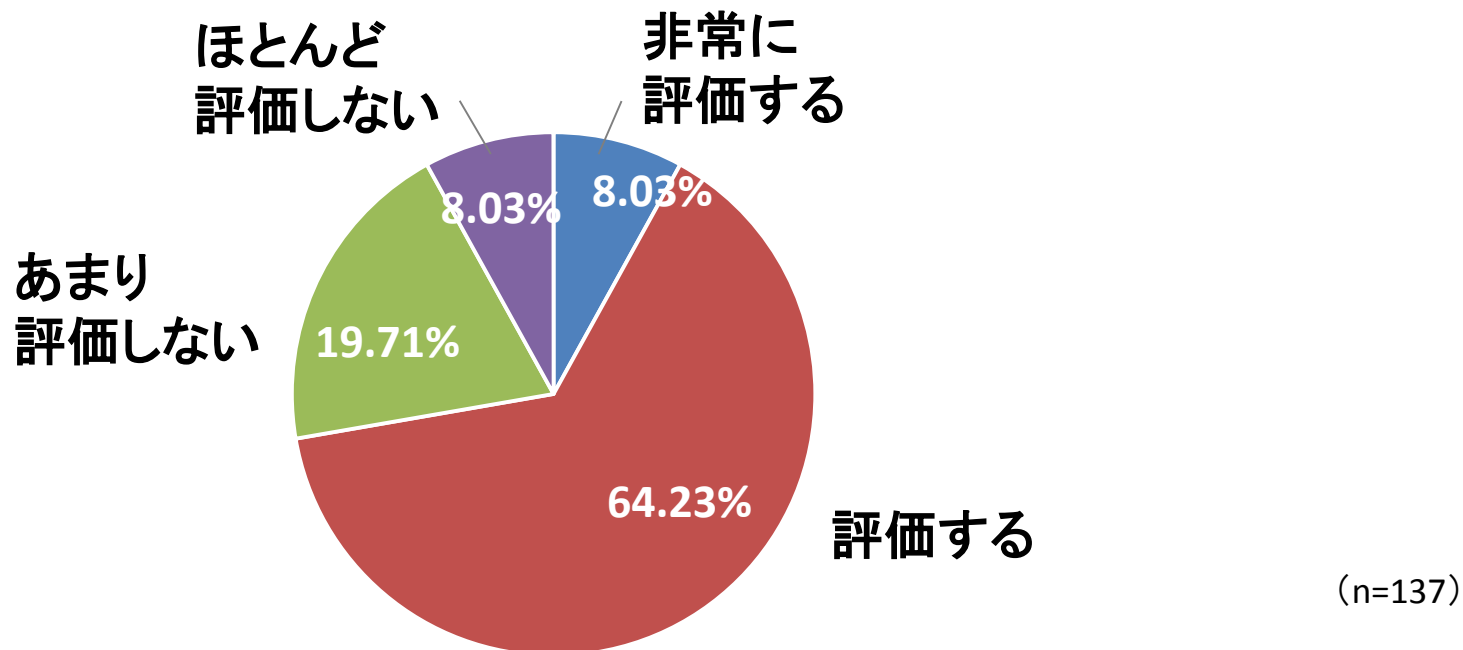
質問10 質問7が「いいえ」「未定」の場合、その理由をお答えください。(自由記述)



「新卒採用試験の方針が未定」のため対策を講じることができないと回答した企業が48.3%と約半数であった。一方、「現行通りの試験日程で問題ない」と回答した企業は24.1%であり、企業による検討段階に差が生じていることが伺えた。



質問11 貴社としては、オリンピック・パラリンピックのボランティアとして積極的に参加した大学生・大学院生をどのように評価しますか？



「非常に評価する」(8.03%)と「評価する」(64.23%)を足すと、一定の**評価をするが72.2%**であったが、「あまり評価しない」(19.71%)と「ほとんど評価しない」(8.03%)を足すと、**評価しないは27.7%**であった。また、「非常に評価する」と「ほとんど評価しない」が**8.03%と同数**であり、ボランティア活動の評価については企業によって差があることがわかった。



質問12 現時点で大学生・大学院生のインターンシップ受け入れや新卒採用試験と、オリンピック・パラリンピックの学生のボランティア参加の関係について課題だと感じていることがあればご記入ください。(自由記述)

時期の重複による調整 (n=12)	<ul style="list-style-type: none">• オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせて、選考時期を設定しなければならないこと• 日程や広報の配慮が必要になること• 面接や説明会などを企業が柔軟にボランティアのない時間帯(夜間など)に実施できるか
学生が就活に時間を割けずに発生するリスク (n=9)	<ul style="list-style-type: none">• ボランティアに長期時間を割かれると、就職活動やそれにとまなう情報収集に時間や労力を学生が費やせなくなる可能性• ボランティア活動に比重を置き、企業研究が甘くなり、離職等のミスマッチにつながらないか• 学生がボランティアに参加することにより、選考に参加できる企業数の減退
経団連の指針が未定 (n=6)	<ul style="list-style-type: none">• オリンピック開催年の採用に関する経団連倫理規定が現段階で決まっていないこと• 経団連指針の変更による部分もあるため、現時点では分からないこと
学生の動機 (n=6)	<ul style="list-style-type: none">• 学生時代力を入れたことがボランティアの話ばかりになってしまうのではないか• 何事にも主体的に目的意識を持って取り組んで頂きたい
現時点で影響の予想が困難 (n=4)	<ul style="list-style-type: none">• オリンピック・パラリンピックの学生ボランティアの実態が分からないため、インターンシップや新卒採用試験に与える影響が予測できない• 今回のアンケートで初めて課題だと知った
その他 (n=13)	<ul style="list-style-type: none">• インターンに参加しやすい時期とオリンピックが重なるので、長期のインターンは難しい• 会場や交通に対する影響• 事前にスケジュール調整ができれば、課題は特にない• 通年採用を前提とした動きに切り替えることを検討しており、行事時期は特に選考に影響しない。

(n=50)



質問13 オリンピック・パラリンピックに大学生・大学院生がボランティアとして参加することに対して、貴社として大学側に期待すること、求めることがあればご記入ください。
(自由記述)

ボランティア活動での学びの深化をサポート (n=14)	<ul style="list-style-type: none">• 何故参加するのかという目的や参加した結果どうであったのか等を意識させ、ただ参加するだけでなく、成長の視点などを付与してほしい• 多様化、国際交流など幅広い視野を身につけている点を期待• 課外活動を通して幅広い視野を持ち、問題意識や当事者意識を身に付けられるボランティア活動になれば良い
個人意思の尊重 (n=6)	<ul style="list-style-type: none">• ボランティアとしての参加は個人の自由なので、大学側には期待することはない• できるだけ学生個人の判断でオリンピック・パラリンピックに関わることができるような環境を整えてほしい。
積極的なボランティア参加の推進 (n=6)	<ul style="list-style-type: none">• 国際交流を積極的に図る人材を大学側が主導して育成してほしい。(例えば単位化)• オリンピック、パラリンピックに主体的に関わることは、学生が視野を広げ、ボランティア精神を醸成するうえで重要なこと。積極的に働きかけを行うべき
就活との両立ができるようなサポート (n=6)	<ul style="list-style-type: none">• ボランティア活動と就職活動の両立ができるような支援• オリンピック・パラリンピックのボランティア参加により、就職活動が順調に進んでいない学生の紹介
学業との両立ができるようなサポート (n=3)	<ul style="list-style-type: none">• 学業とボランティア活動が両立できるような配慮• ボランティア活動を公欠と認める寛容さが必要
その他 (n=7)	<ul style="list-style-type: none">• より学生の学び(専攻など)に繋がるボランティア機会の創出・仲介• あくまでボランティアであり、就職で有利になるから参加するという風潮にならないことを望む

(n=42)



考 察

1. 現時点においては経団連の方針も含め未定の部分が多く、対応を進められない状況であることが明らかになった。一方、現行通りのスケジュールや対応で問題ないと回答している企業もあり、企業の対応に二極化が見られた。
2. しかしながら、現時点で検討段階にない企業においても、学生の動きに応じて柔軟な対応を検討している企業が多くあることも明らかになり、これはボランティアの参加を検討している学生にとってはある程度安心材料として働くと考えられる。
3. 学生を送り出す教育機関としての大学に求められることとしては、学生の主体的な学びや成長を深めるために事前・事後学習を実施することが、他の課外活動やインターンシップ同様に重要であると考えられる。
4. 五輪ボランティアと大学生の学業や就職活動の関連を考えることは、若者の人材育成やキャリアをどう考えるのかということに行きつく。例えば、海外留学組は、「日本の就活スケジュールへの賛否」を問う質問では約半数が反対というデータがある（参考：株式会社ディスコ キャリタスリサーチ「海外留学生のキャリア意識と就職活動状況」2018年4月発行）。五輪ボランティアへの参加の在り方を考えることで、多様な経験を積みたいという学生にとって、就活のチャンスが減るのではなく、増えるというインセンティブに働く流れに変化することを期待される。